



TAISEI
JUNIOR-SENIOR
HIGH SCHOOL

TAISEI

泰 星

泰星学園
同窓会会報

第3号 1997.5月

発行元 泰星学園同窓会事務局
〒810 福岡市中央区輝国1丁目10-10
TEL (092) 712-7181㈹
FAX (092) 716-5036



目次

- 新会長あいさつ
- 久保前会長より
- 同窓会活動報告
- 泰星紀行
- 泰星学園は今・・・
- 新役員組織図

同窓会会長
松尾 秀夫

同窓会員の皆様今日は、泰星学園同窓会会報でご挨拶申し上げようとは思いもよりませんでした。

ふりかえって見れば昭和二十四年より六年間平尾校舎に通い続けました。その間我々はある時は失望と挫折の意味を肌で感じ、またある時は友人と喜びを分かち合い、青春を胸いっぱい吸い込みました。どちらかと言えば勉強よりも「ワル」の方がおもしろく、時間が長かった様な気が致します。特にスポーツには熱を入れ、たくさんの汗を流したものです。

それから三十年当年幹事と一緒に新しい泰星学園に行き、先輩・学校の先生方から学校の方針、目的、現状等を聞き、又校舎を見てスバラシイ学園になつてゐる事に、おおいに感動致しました。

私が思いますに、同窓会とは学校を中心にしての同じ同窓生との友情交遊、先輩・後輩とのつながり又先生との深いつながりを広げる祭りだと思っております。この祭である「泰星学園同窓会の集い」に一人でも多くの会員参加を推進するのは会報誌でありその情報発信が重要になって来ます。この事の相乗作用によって、同窓会のさらなる発展を祈念し私のご挨拶とします。

前同窓会会長
久保 守

「第十七条 本規約は昭和三十一年一月八日より実施する」

今、私の目の前に古く黄色くなつた一枚のB5の紙がある。泰星同窓会の発足を示す規約である。

あれから四十一年たつたかと思うと懐古の念とともに何か熱いものが湧いてくる。

泰星の経営母体は、何度かの変遷を経て今

日のイエズス会に落ち着いているが、その当時は、まだマリア会の経営であった。その時の入江校長（何故か、この校長の名前は、同

窓会名簿の旧職員の中から欠落している）が

私に「一つ同窓会を作つてみたらどうだろうか」と誘い水を掛けてきたのが、そもそも始まりであった。昭和三十年のことである。

そこで、校長さんと私の二人で、先輩校の長崎海星の同窓会を視察に行くことになった。

今でも思い出すとなんだか狐につままれたような気になるのだが、長崎駅に着くと、アナウンスがあつて、海星の関係者の人達がむかえに来ているという。果たして、改札口には五、六人の人が待ち構えていた。校長さんは泰星に来る前は海星の校長をやっていたこと

もあり、皆旧知の間柄で「やあやあ」と和気

藪々のうちに再会を喜びあつていた。同窓会長の名刺の肩書きには、県議会議長と記されていた。

タクシーは、かるやかに東山手の海星高校に向かうものとばかり思つていたところが、

さにあらず、新地の有名中華料理店にやつてきた。こここの経営者も海星の卒業生ということである。

ゆつくりとした畠の雰囲気の中で、海星の校長さんも駆けつけてきて、貴重な資料を頂き話を聞かせていただいた。ついでに、おいしい中華料理も。

福岡に帰つてすぐに、規約の原案を作り、OB諸君に声を掛けて、設立委員会を発足させ、一気に設立にむけて走り出した。

こうして、三十一年一月八日の設立総会が実現することになる。

会場は、あの平尾淨水通りの木造の旧校舎だつた。皆若くてやる気満々、熱氣にあふれていた。そのうちのある者は、すでに幽明境をことにしている。

「創立の頃」

同窓会集い

平成八年七月六日（土）午後六時より博多パークホテルにて、本年度担当幹事第二十七期、第二十八期生の企画、運営によつて開催された。

まず、久保同窓会会长の挨拶で始まり、「私どもの周囲は例年になく燃えています。福岡市は現在一番元氣のある都市として脚光をあびています。この夏、アトランタでのわが国の活躍を期待し、そして、世界的には来年、オーストラリアのシドニーで、わが泰星をも含むイエズス会系学校同窓会の世界大会が開催されます。今年こそ私どもも燃える時です。お互いに、同窓会の暖かい友情を秘めつつ堅く手を繋ぎ、青春時代に母校で学んだ教訓を心にしつかりと刻みながら、明るい未来に向かって、社会の発展のため、中核となつて活躍しようではありますんか。」と

挨拶されたあと、新校長、梶山義夫校長の紹介と挨拶があり、議事に入り、議長に末若直司氏（第六期卒）を選出し、平成七年度の事業報告、決算報告、平成八年度の事業報告、予算計画、等々を満場一致で承認された。その後役員改選の議事にはいり、予てから定例の役員理事会で久保会長の退任が表明され、その都度、理事会でも強く留任していただくようお願いしていましたが、退任の意志が堅く、六月の理事会で久保会長退任を承認し、新会長に松尾秀夫氏（第五期）を、また副会長に新たに川村浩之氏（第二十三期）を承認した。以上の経緯を経て本総会で満場一致でもつて承認された。議長よし、新会長、新副会長の紹介があり、総会は終了した。参加者全員の記念写真撮影があり、懇親会にうつった。

松尾新会長の力強い乾杯の音頭で、今年も賑やかに始まりました。来賓に校長をはじめ先生方を多数お迎えし、年に一度の再会に会場は、和やかな雰囲気につつまれ、同窓生有志より寄贈された賞品でのビンゴゲームあり、おおいに盛り上りました。

最後に、「毎年恒例の」全員肩を組み歌の大合唱で、盛会裡に閉会した。平成九年度の総会は、七月五日（土）午後六時より、新装なつた、博多パークホテル（同じ会場）にて、担当幹事第二十八期、第二十九期生の企画、運営で開催いたしますので、多数のご参加をお願い致します。



「久保 守教授退任記念会」盛大に行われる!



パーティでの記念撮影



松尾会長あいさつ

同窓会前会長久保守先生が福岡大学を三月をもつて退任されるに際して、盛大な記念パーティー（市議・浜田雅之氏発起）を、また副会長に新たに川村浩之氏（第二十三期）を承認した。出席者は福大関係をはじめ百五十名に及び、泰星同窓会からも会長・副会長・学園事務長他が参加し、松尾会長が挨拶を述べた。

大学教育の場における久保先生の存在は大きく、学究の分野だけでなく、人間の生き方について先生の人格的影響が大きかったことを示すもので、感銘深い集りであった。

先生のますますのご健勝とご活躍をお祈りしたい。

ゴルフコンペ

小郡カントリークラブ H8.5.14/ 参加者 23名		
優 勝	岩 佐	92 - 20.4 = 71.6
準 優	高 木	78 - 6.0 = 72.0
3 位	中 島	101 - 28.8 = 72.2
4 位	神 村	89 - 16.8 = 72.2
5 位	鈴 木	85 - 12.0 = 73.0
6 位	須 藤	90 - 16.8 = 73.2
7 位	藤 田	96 - 21.6 = 74.4



福岡雷山ゴルフクラブ H8.10.8/ 参加者 19名		
優 勝	鈴 木	77 - 8.4 = 68.6
準 優	小 路	102 - 30.0 = 72.0
3 位	末 若	91 - 18.0 = 73.0
4 位	岩 佐	96 - 22.8 = 73.2
5 位	大 串	88 - 14.4 = 73.6
6 位	神 村	88 - 13.2 = 74.8
7 位	信 川	104 - 28.8 = 75.2



泰星会では春秋年2回開催いたしております。

皆様の参加をお待ちしております。

連絡先：田中 文男（第6期）TEL 843-5828

訃報

田原 輝

第3期

昭和13年卒

（第2代同窓会会长）

今年5月初めにお亡くなりになりました。心からご冥福をお祈りします。

泰星学園同窓会東京支部 東京県人会の名簿に登録

泰星学園同窓会東京支部が東京県人会の名簿に登録されましたのでご報告致します。みなさん上京の折にはぜひ一度尋ねてみられてはいかがでしょうか。

連絡先

横浜市中区長者町 5-75-1 スクエアー長者町 813
オーエイシステム（株）
TEL 045-243-0510

大場 優



泰星小神学校の思い出

石神 忠真郎（前那霸司教）

第三期（昭和十三年卒）

今から六十七年前、一九三〇年

福岡市郊外平尾が丘の林に木造二階のモダンな校舎が建てられた。

これが現泰星中・高等学校の前身、泰星小神学校であった。カトリック福岡教区長ブルトン司教の創立したカトリック司祭志願者のための旧制中学校であった。創立後三年目の春、私たち十数名の鹿児島教区小神学生が鹿児島からここに転校して来た。来校後間もなく見学した裏山の福岡浄水所公園や西公園の満開の桜は今なお脳裏に残っている。

転校当初は崖を切り崩しての運動場拡張工事が未だ進められていた。つるはしで崖を削っている労務者のリーダー格のおじさんが一日の仕事を終えて帰路につく前に、崖に向かって帽子を取り頭を下げていた働く人の尊い姿は実に美しいものであった。

福岡教区神学生で私たちの先輩は、伊藤誠二神父様や先年亡くな

られた牧山藤房神父様である。後輩には最近帰天された青木保、平

田正喜神父様がおられた。また、少し遅れて現在の高松教区の深掘敏司教様もおられた。校長はパリ宣教会のボア神父様でした。広い

合同の学習室で、週に一回アゴ髭をしごきながら私たちに生活指導の講話をなさっていた姿を思い出すのも懐かしい。今も耳に残っているのブルノ神父様の美しいグレ

ゴリアン聖歌の音声、退役陸軍少尉教官の朗々たる詩吟、若いフランス語の先生が折にふれて聞かせてくださった童謡のメロディー、多感だったあの頃の思い出は尽きぬものがある。

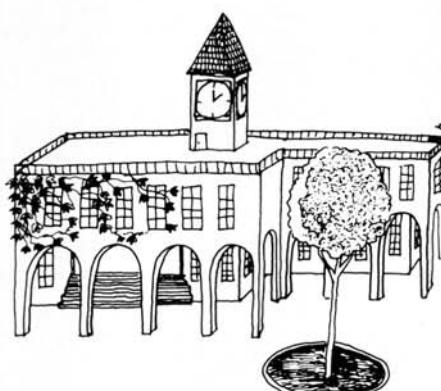
る。

み攝理とは奇なもので、卒業後の日本社会の動乱の中で、ある友

は戦死し、ある優秀な友は他の道に進み、大戦後数年にして司祭職に恵まれたのは私一人であった。

「天地の主である父、わたしはあなたをほめたたえます。あなたはこれらのこととを知恵ある人や賢い人に隠し、小さいものに現してくださいました。」（マテオ十一の

二十五）





「病氣で出足がにぶつたが今は大学の教師で超多忙」

早川 順(第三十一期卒)

青年海外協力隊での活動
九六年二月にボランティアとしてカンボジアへ赴任した早川君(三十一期卒)近況が、この度、青年海外協力隊事務局発行の機関誌「クロスロード」に掲載されましたので、全文をご紹介いたします。

ブノンベン大学の開設間もない学科で教えています

私は、カンボジアの首都ブノンベンにあるブノンベン大学でコンピューター・サイエンスを指導しています。理工学部のコンピューター・サイエンス学科の学生とスタッフが対象です。本学科は、

九五年の十一月から学生を受け入れた、生まれたての学科です。学生は、年生が二十名、二年生が十三名で、スタッフは学科長(カウンターパート)を筆頭に十名です。また、数名のスタッフが海外留学中です。全体としては、学生八千名、スタッフ二百名の規模の大手です。

学科長を除くスタッフはコンピューターが専門ではなく、化学・地学・数学・物理などを専攻していました。将来は、すべてのスタッフに、コンピューター・サイエンスの学士および修士の資格を必須とする計画があることから、スタッフへの指導が当初の要請内容でした。しかし、指導者不足の事情により、学生への指導が主な活動となっています。

私がカンボジアへ到着したのが、九六年一月です。では、大学の後期日程が始まっていました。実際は、訓練の終り(修了式の三日前)に、私は病院へ拘り込まれてしまい、その治療と療養のため、三ヶ月も派遣が遅れたのです。そのため、わたしの前任者は、既に任期を終え、空白期間が二ヶ月ほどになっていました。しかも、現地語学訓練のため本格的な活動は、さらに遅ることになりました。

語学訓練はクメール語(カンボジア語)を約三週間行ないましたが、その間も本格的活動へ向けた準備を進め、週に三回ほど大学へ出向きました。大学では英語を基本として活動することになっていました。私の赴任とは同時に、アメリカ人講師の交代があり、マレーシア人講師を含めた三人の外国人講師が指導にあることになり、彼らと英語で会話をしても、ついクメール語になっていました。

私は、カンボジアにあるブノンベン大学でコンピューター・サイエンスを指導しています。理工学部のコンピューター・サイエンス学科は、年生が二十名、二年生が十三名で、スタッフは学科長(カウンターパート)を筆頭に十名です。また、数名のスタッフが海外留学中です。全体としては、学生八千名、スタッフ二百名の規模の大手です。

学科長を除くスタッフはコンピューターが専門ではなく、化学・地学・数学・物理などを専攻していました。将来は、すべてのスタッフに、コンピューター・サイエンスの学士および修士の資格を必須とする計画があることから、スタッフへの指導が当初の要請内容でした。しかし、指導者不足の事情により、学生への指導が主な活動となっています。

私がカンボジアへ到着したのが、九六年一月です。では、大学の後期日程が始まっていました。実際は、訓練の終り(修了式の三日前)に、私は病院へ拘り込まれてしまい、その治療と療養のため、三ヶ月も派遣が遅れたのです。そのため、わたしの前任者は、既に任期を終え、空白期間が二ヶ月ほどになっていました。しかも、現地語学訓練のため本格的な活動は、さらに遅ることになりました。

語学訓練はクメール語(カンボジア語)を約三週間行ないましたが、その間も本格的活動へ向けた準備を進め、週に三回ほど大学へ出向きました。大学では英語を基本として活動することになっていました。私の赴任とは同時に、アメリカ人講師の交代があり、マレーシア人講師を含めた三人の外国人講師が指導にあることになり、彼らと英語で会話をしても、ついクメール語になっていました。

私は、カンボジアにあるブノンベン大学でコンピューター・サイエンスを指導しています。理工学部のコンピューター・サイエンス学科は、年生が二十名、二年生が十三名で、スタッフは学科長(カウンターパート)を筆頭に十名です。また、数名のスタッフが海外留学中です。全体としては、学生八千名、スタッフ二百名の規模の大手です。

学科長を除くスタッフはコンピューターが専門ではなく、化学・地学・数学・物理などを専攻していました。将来は、すべてのスタッフに、コンピューター・サイエンスの学士および修士の資格を必須とする計画があることから、スタッフへの指導が当初の要請内容でした。しかし、指導者不足の事情により、学生への指導が主な活動となっています。

私がカンボジアへ到着したのが、九六年一月です。では、大学の後期日程が始まっていました。実際は、訓練の終り(修了式の三日前)に、私は病院へ拘り込まれてしまい、その治療と療養のため、三ヶ月も派遣が遅れたのです。そのため、わたしの前任者は、既に任期を終え、空白期間が二ヶ月ほどになっていました。しかも、現地語学訓練のため本格的な活動は、さらに遅ることになりました。

語学訓練はクメール語(カンボジア語)を約三週間行ないましたが、その間も本格的活動へ向けた準備を進め、週に三回ほど大学へ出向きました。大学では英語を基本として活動することになっていました。私の赴任とは同時に、アメリカ人講師の交代があり、マレーシア人講師を含めた三人の外国人講師が指導にあることになり、彼らと英語で会話をしても、ついクメール語になっていました。

私は、カンボジアにあるブノンベン大学でコンピューター・サイエンスを指導しています。理工学部のコンピューター・サイエンス学科は、年生が二十名、二年生が十三名で、スタッフは学科長(カウンターパート)を筆頭に十名です。また、数名のスタッフが海外留学中です。全体としては、学生八千名、スタッフ二百名の規模の大手です。

学科長を除くスタッフはコンピューターが専門ではなく、化学・地学・数学・物理などを専攻していました。将来は、すべてのスタッフに、コンピューター・サイエンスの学士および修士の資格を必須とする計画があることから、スタッフへの指導が当初の要請内容でした。しかし、指導者不足の事情により、学生への指導が主な活動となっています。

なつてしまつたりなど、当時は大混乱状態でした。

現在は、生きいくには困らないクメール語は覚えましたので、九六年は英語の向上年と決め、クメール語は九七年に磨きをかける予定です。

導入されたインターネットへの期待

活動を本格的に始め、学生へプログラミングの指導を行いました。既に、カリキュラムはあるのですが、それに対応したソフトウェアが準備されていません。大学には、保守・維持のための要請はあります。ハードやソフトを購入する余裕はありません。カウンターパートからも要請もあり、私が語学訓練中から、ソフトウェアの調達を行なうことになり、ブノンベン市内にある数件のコンピューター・ショップへ出かけたものの、どの店にも必要なソフトウェアがなく、これらの店へ相談しても入手までに数ヵ月が必要なことで、途方に暮れています。

しかし、アメリカ人講師の助けもあり、必要な講義を開始することができます。私の赴任後に、大学がインターネットと接続しました。これは、一般電話回線を使って実現しています。また、接続先プロバイダーも一日三回、アメリカと電話回線を使って接続しています。電話回線の品質が悪く、Eメールなどの利用にどうまっています。

現在、日本のJ-SAT(株式会社日本サテライ

トシステムズ)の協力により、カンボジアへ、高品質なインターネット衛星回線を導入する計画が進んでいますが、国内回線の早急な整備が望まれています。

カンボジアには、コンピューターはパソコンを意味します。本学科でも、十八台のDOS/Vパソコンで、実習などをしています。しかし、すべてのコンピューターは、寄付された旧式のパソコンで、Windows 95を動かすことが難しく、古い3.1の使用を余儀なくされています。

時々、ブノンベン大学を訪れる日本を含む外国の教育関係者と話ををする機会があります。彼らも、パソコン(最新の中古!)の寄付を申し出してくれます。しかし、やはり一番心配なのは、健康状態です。完治したとは言え、赴任前の発病はもちろん、カンボジアでも原因不明の体調不良で入院の経験があることから、大学のスタッフも不安なのでしょう、「何があつたらすぐ呼べ」と気を遣ってくれています。自分の体と環境に注意しながら、活動していきたいと考えています。活動中の発病だと、日本への帰国もあり得ます。わたしの場合には、赴任直前の発病は「不幸中の幸い」でした。

が自由にパソコンを利用できません。彼らは、実習の時間だけしか利用できないのです。こちらでは、なかなか個人でパソコンを購入することはできません。

人材も揃って、講義の方も順調にすんでいます。さて、講義のほうですが、最初は英語での講義、しかも学生のスキルもはつきりしなかつたため、戸惑うことが多くありました。実際、講義中でも、学生が理解したのかどうかつかみきれない場合がありました。しかし、一学期を終えて、カンボジアの学生にどのように教えるべきかとのノウハウではないでしょうか。また、カンボジアのスキヤンダラスな面だけではない本来の姿を世界中に発信することができるようになるでしょう。

カウンターパートの学長との話の中でも、スタッフのスキルアップと学士の取得をどう進めていくせんせんでした。大学には、保守・維持のための要請はあります。ハードやソフトを購入する余裕はありません。カウンターパートからも要請もあり、私が語学訓練中から、ソフトウェアの調達を行なうことになり、ブノンベン市内にある数件のコンピューター・ショップへ出かけたものの、どの店にも必要なソフトウェアがなく、これらの店へ相談しても入手までに数ヵ月が必要なことで、途方に暮れています。彼は、学生と一緒に講義を受講させたいと考えているようです。しかし、スタッフも担当授業を持っていたり、コンピューターの維持・管理などに忙しく、実現には至りません。

カンボジアは、コンピューターにとって、過酷な環境で、埃と暑さはもとより、不安定な電源事情、コンピューター・ウイルスも蔓延しています。そのため、日本では考えられないようなトラブルも頻発し、維持管理に時間を費やすことが多いります。

さらには、指導者不足、機材不足の問題は深刻で、一年生しかない現在でさえ大変なので、から、今後学生が増えることを考へると、本学科で指導者を育て上げることを含め、対策を考える必要があります。しかし、海外で勉強中のスタッフの帰国や新たな外国人講師の要請の話もあり、特に、海外留学中のカンボジア人の帰国は望ましく、実現すると、この学科の間口も広くなるでしょう。

カンボジアでは、コンピューターはパソコンを意味します。本学科でも、十八台のDOS/Vパソコンで、実習などをしています。しかし、すべてのコンピューターは、寄付された旧式のパソコンで、Windows 95を動かすことが難しく、古い3.1の使用を余儀なくされています。

大学での指導だけでなく、インフラの拡充・運用さらにはクメール語文字の標準化作業にも関わることになり、結構忙しい日々を送っています。シニア隊員が着任予定です。

九六年十二月にはその彼が再度赴任する予定になっています。その直前の十一月にはJOCVのインターネットを通じてサポートしてくれています。

大学での指導だけでなく、インフラの拡充・運用さらにはクメール語文字の標準化作業にも関わることになり、結構忙しい日々を送っています。しかし、やはり一番心配なのは、健康状態です。完治したとは言え、赴任前の発病はもちろん、カンボジアでも原因不明の体調不良で入院の経験があることから、大学のスタッフも不安なのでしょう、「何があつたらすぐ呼べ」と気を遣ってくれています。自分の体と環境に注意しながら、活動していきたいと考えています。活動中の発病だと、日本への帰国もあり得ます。わたしの場合には、赴任直前の発病は「不幸中の幸い」でした。

部活実績

積もり積もって一〇回目
泰星プラスオーケストラの定期演奏会に
拍手喝采!!



四月五日、泰星プラス マン楽団のシングル・シンガーコンサートの第十回定期演奏会がアクロス福岡シンフォニーホールで開かれた。広いホールは公演時間が近づくにつれて席が埋まり、十回目という実績にさわしい盛況ぶりであった。

第一部はチャイコフスキイの三大交響曲の一つ、「交響曲第五番」であった。交響曲がプラスによってどのよう表現されるのかを印象に残っている。アンソリューム「六十四」であった。交響曲の拍子の中、続けて三曲演奏された。終演後、

泰星の仲間がここまで頑張ってくれたことを大変誇りに感じた。対外的にも成果が遺憾なく発揮され、聴き応えのある演奏だった。

今回の演奏は須藤先生によつて編曲されたものだが、プラスオーケストラ用としては世界初の公演だったといふ。第二部はベニーベッドみたい（吉松）。

四月五日、泰星プラス マン楽団のシングル・シンガーコンサートの第十回定期演奏会がアクロス福岡シンフォニーホールで開かれた。「一人一人の努力の成果が発表され、個性ある演奏が聴衆を引き込み、会場全体の一体感すら感じられた。

高三の高度な演奏はもとより、舞台の端で懸命にパーカッションでリズムを取つていた中二の姿も印象に残つている。アンソリューム「六十四」では、泰星危うし。大石監督はここで有岡君をコートに入れた。彼は足首を故障しており、テーピングで固定しながらのプレーは痛々しい限りであつたが、監督の「勝つ！」という心意気が通じたためであろう、選手諸君も立ち直り、前半は一ポイント差まで詰め寄つて終えた。

後半が始まるや否や、ベースをつかんだ泰星は終了三分前で三ボイントリードと勝利を手中に収めたかのような試合運びとなつた。負傷の有岡君はここで交代、逃げ切り体制に入った。と見る見るうちに追上げられ、終了直前、三〇秒前には追いつかれてしまつた。

ドラマはここから始まつた。勢いに乗る小島中はバス回しのリズムも良く、執念深い攻撃をしてきた。一本のシュートが放たれた。キーパーの渡口君はこれをよく防ぎ、ゴールを阻んだが、そのこぼれ球が彼の前に転がつた。そこに小島中の選手が居た。ねじり込むようなシュート。終了三秒前に逆転劇は起こつたのである。

一回戦敗退ではあるが、素晴らしい試合だった。終了十秒前からがすべてではあつたが、そのための練習があり、大会を勝ち進んできた選手諸君に夏の健闘を期待したいと思う（服部）。

去る三月二十九日、中学ハンドボール九州大会が大分市で行われた。

遙々と応援に行き、泰星中学の雄姿をこの目で見てきた。九州大会に出場するのは各県の優勝校、準優勝校である。泰星は長崎県二位の小島中学と対戦することとなつた。

ゲーム前半の泰星は動きが堅く、早々に三ポイントを離され、楽勝ムードは吹き飛んでしまつた。

泰星危うし。大石監督はここで有岡君をコートに入れた。彼は足首を故障しており、テーピングで固定しながらのプレーは痛々しい限りであつたが、監督の「勝つ！」という心意気が通じたためであろう、選手諸君も立ち直り、前半は一ポイント差まで詰め寄つて終えた。

後半が始まるや否や、ベースをつかんだ泰星は終了三分前で三ボイントリードと勝利を手中に収めたかのような試合運びとなつた。負傷の有岡君はここで交代、逃げ切り体制に入った。と見る見るうちに追上げられ、終了直前、三〇秒前には追いつかれてしまつた。

ドラマはここから始まつた。勢いに乗る小島中はバス回しのリズムも良く、執念深い攻撃をしてきた。一本のシュートが放たれた。キーパーの渡口君はこれをよく防ぎ、ゴールを阻んだが、そのこぼれ球が彼の前に転がつた。そこに小島中の選手が居た。ねじり込むようなシュート。終了三秒前に逆転劇は起こつたのである。

一回戦敗退ではあるが、素晴らしい試合だった。終了十秒前からがすべてではあつたが、そのための練習があり、大会を勝ち進んできた選手諸君に夏の健闘を期待したいと思う（服部）。

広島学院遠征記

泰星野球部の武者修行

四月一日から三日にかけて中高野球部の広島学院との交流試合遠征に同行して参りました。高校野球部は二年前にも姉妹校四校による交流会を実現していましたが、中学部にとつては初めての県外遠征でした。一抹の不安を抱えながらも行く前から部員と共に浮き足立つておりました。

三日間の後半は天候に恵まれなかつたものの、中高とも合計四試合ずつ戦うことができ、中学部は予想に反してすべて一点差で四連勝（高校部は四連敗！）を納め、最後まで浮かれて帰つてきました。

ただ、広島学院の部員諸君の礼儀正しさ、ひたむきさには学ぶところが多く、また、中学部が初めて見せた粘り強さなど、参加した部員にとつては貴重な体験があつたと思います。そして、今後もこのような交流を我々の活力にするとともに、こうした対外的交流をどんどん広げることが、泰星全体の活性化につながつていこうことを心より願っています。

（里見）

進学状況

平成九年度大学進学実績総括

冬来たりなば 春遠からじ…

もうとっくに春は過ぎ行き、晚春から初夏に移ろうとしているのに、季節はずれの文句から始めてしまいました。

「春遠からじ」というのは進路部長として泰星卒業生の大学合格状況を考えたときの言葉です。

泰星が六ヶ年一贯の中・高等学校になつてから早や十四年が過ぎ、平成二年以来八回の卒業生を出してきました。八回で卒業生総数九百十六名です。この数字は大型私立高校の一年分、県立高校の二年分の卒業生数にあたります。この間の大学合格実績は次の通りです。

- 東京大学 ≈ 八名
 - 京都大学 ≈ 八名
 - 東京工業大学 ≈ 六名
 - 北海道大学 ≈ 二名
 - 九州大学 ≈ 五十七名
 - 大阪大学 ≈ 六名
 - 一橋大学 ≈ 三名
 - 神戸大学 ≈ 二名
 - 広島大学 ≈ 七名
 - 名古屋大学 ≈ 一名
 - 熊本大学 ≈ 十七名
 - 佐賀大学 ≈ 十一名
 - 長崎大学 ≈ 十六名
 - 大分大学 ≈ 五名
 - 鹿児島大学 ≈ 十五名
 - 山口大学 ≈ 十四名
- 冬来たりなば 春遠からじ…

(井上)

泰星学園のホームページ開設！

泰星学園校友会発行の新聞「泰星」の内容がインターネットのホームページで見られます。マルチメディアに关心や得意とされる方はぜひ一度アクセスして下さい。

アドレスは
<http://www.coara.or.jp/-taisei>

平成9年度大学合格実績（4/8判明分）

昨年度卒業生数 136名

【国立大学】	【私立大学】	【公立大学】
東京大学 1	早稲田大学 13	大阪府立大学 1
京都大学 1	慶應義塾大学 4	国公立大学合計 42
九州大学 12	明治大学 5	私立大学合計 232
大阪大学 2	法政大学 3	国公立・私立大学 総計 274
一橋大学 1	中央大学 1	
神戸大学 1	関西大学 3	
広島大学 2	国学院大学 1	
信州大学 1	東京農業大学 3	
熊本大学 3	上智大学 8	
長崎大学 5	拓殖大学 1	
鹿児島大学 2	同志社大学 17	
横浜国立大学 1	日本大学 2	
佐賀大学 1	立教大学 3	
山口大学 1	専修大学 1	
九州工業大学 3	立命館大学 20	
九州芸術工科大学 3	成城大学 1	
京都工芸繊維大学 1	大正大学 1	
	芝浦工業大学 3	
	武蔵野音楽大学 1	
	神奈川大学 1	
	関西学院大学 7	
	東京理科大学 10	
	青山学院大学 5	
	久留米大学 9	
	福岡大学 35	
	西南学院大学 11	
	その他の私立大学 63	

単位は（人）
数値はのべ人数

泰星学園同窓会新役員組織図



編集後記

会報を発刊する為にスタッフ一同何度も編集会議を開きながら頑張っております。

いつも苦戦の連続ですが皆様方より励まされ、又、アドバイスを受けながら今回も発行する事が出来、ひと安心といった所です。毎回お願いしている事ですが、どしどし原稿をお寄せ下さいます様お待ちしております。

<委員>

田中文男（6回卒）
島田征児（11回卒）
迎洋介（28回卒）

平成9年度 泰星学園同窓会総会のお知らせ

拝啓 同窓生の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。さて、平成九年度の同窓会総会を下記の通り開催致します。どうかお誘いあわせの上多数ご出席をお願い致します。

同窓生各位

同窓会会長 松尾秀夫

- 日時 7月5日（土） 6時（総会） 7時（懇親会）
- 場所 博多パークホテル 博多駅博多駅前4-11-18
電話 451-1151
- 会費 6,000円（年会費3,000円含） 学生2,000円
主幹事世話人 28期生 迎・鈴木・江口
副幹事世話人 29期生 大石・本庄・平田

（追伸） なお、連絡不行き届きの同窓生の方もおられると思いますので、1人でも多くの方をお誘い頂きたく存じます。

同窓会年会費
納入のお願い

創立以来、卒業生も約7,000名となりました。今まで年会費の納入は毎年の卒業生と同窓会総会の出席者（年100名前後）が納める会費でのみ運営されてまいりましたが、「卒業生一人々の責任ある力でさらなる発展を」目標に日々邁進するためにも卒業生の皆様の暖かいご理解とご支援をお願いいたします。

※同窓会総会に出席出来ない方は、同封の振込み用紙にて振込みをお願いします。